

## 幼児における口呼吸の対策と判定基準について

○小石剛, 浅野博, 中島隆敏, 西川岳儀, 樋口高広, 堀部尊人, 岡崎好秀\*

(Hyrax 友の会, \*モンゴル健康科学大学)

### 【目的】

口呼吸は様々な疾患だけではなく顎顔面の発育を妨げ歯列の悪化の原因ともいわれている。そのため早期発見と早期対処,さらには予防を求める声大きい<sup>1)</sup>。しかし口呼吸の基準は曖昧であり,早期発見及び早期対処に必要と考えられる客観的な判定基準は未だ確立されていない。我々はこれまでの調査において独自の基準を使用してきた<sup>2)</sup>。今回は他の方法と合わせて判定し,歯科検診時などに活用できる判定基準および口呼吸の対策について考察した。

### 【方法】

兵庫県宝塚市の某幼稚園児 176 名 (3~6 歳) の歯科検診時に口呼吸の有無を調べた。口呼吸の判定は 2 つの方法を用いそれぞれ同一の人物が判定を行った。

方法Ⅰ:①安静時に口唇が開いている②口唇の乾燥を認める③前歯部だけに色素の沈着を認める,のうちいずれかを認める者を口呼吸と判定する。方法Ⅱ①鼻鏡計を鼻下に設置し,曇りによって鼻呼吸を確認する②同時に下唇に検査者の指を設置し,触知により口呼吸を確認する。また共に 2 回以上の呼吸を確認すれば呼吸ありと判定し,そのうち口よりの呼吸を触知した者を口呼吸と判定する。

方法Ⅰは我々のこれまでの調査での判定基準である。鼻鏡計は下唇に設置すると鼻呼吸が影響するため口呼吸ではなく鼻呼吸の判定に用いた。結果の一致の判定には  $\kappa$  係数を用いた。

### 【結果】

口呼吸と判定された者は,方法Ⅰは 136 名および方法Ⅱは 87 名であった。低い一致度ではあるが有意な一致を認めた ( $\kappa = 0.24$ )。鼻鏡計によって鼻からの呼吸が認められなかったものは 1 名であった。その 1 名は外鼻孔に多量の鼻糞が存在した。

### 【考察】

方法Ⅰは口呼吸の判定基準として有用であることが確かめられた。我々の以前の調査において,口呼吸の原因は口唇閉鎖獲得の失敗が要因の一つであることが示唆された<sup>2)</sup>。口呼吸はほぼ全てにおいて鼻呼吸を伴うことから,口腔周囲筋の不活性である口唇閉鎖不全(いわゆる“口ぽかん”)の状態が口呼吸の常態化に大きく影響していると考えられる。

方法Ⅰで示した判定基準は口唇閉鎖不全から起こる症状を示しているため,口呼吸や口呼吸になる可能性のある者のスクリーニングに有効であると考えられる。今回の報告が口唇閉鎖不全(“口ぽかん”)への注目につながり,口呼吸の予防に役立つことを願っている。

### 【文献】

1. (特集)口腔機能を考える:小児科臨床,17(7):10-47
2. 小石剛,浅野博,中島隆敏,西川岳儀,樋口高広,堀部尊人:口呼吸はどこから来たのか?口呼吸の原因を探る(抄),小児歯誌,52(2):256,2014.